

2024年1月31日
公益財団法人母子健康協会
第44回シンポジウム

発達や行動が気になる子どもへの園での対応

発達障害支援のコツ

社会福祉法人青い鳥
横須賀市療育相談センター 所長

広瀬 宏之

(小児科専門医・小児神経専門医・小児精神神経学会認定医・子どものこころ専門医)

本講演にあたって開示すべきCOIはありません

神経発達症群

Neurodevelopmental disorders (ICD-11)

知的発達症 Disorders of intellectual development

発達性発話または言語症群

Developmental speech or language disorders

発達性学習症 Developmental learning disorder

発達性協調運動症

Developmental motor coordination disorder

自閉スペクトラム症 Autism spectrum disorder

格別の努力により多くの場面で適切に機能している ASD 者に対しても診断は適当

注意欠如多動症 Attention deficit hyperactivity disorder

常同運動症 Stereotyped movement disorder

発達障害 = 発達凸凹 + 困りごと

個性	発達凸凹	発達障害
----	------	------

少ない	困りごと	多い
-----	------	----

工夫	支援
----	----

グレー・凸凹・困りごと  要支援

支援とは理解・工夫・配慮

「はじめに診断ありき」ではない

支援にあたって考えるべき要因

- (1)人口の一割という高頻度
- (2)小児に限らない（家族も支援者も）
- (3)支援モデルの違い
- (4)支援のゴールを考える（大事！）

そもそも発達支援とは何か？

支援モデルの変遷

- (1) 医療モデル：原因追求→治療根絶
- (2) 療育モデル：集めて訓練していく
- (3) 社会モデル：個に応じた社会参加

医療モデルの弊害

(1) 診断 ≡ 悪いもの（病巣）探し

治療 ≡ 悪いものの退治（凸凹の根絶）

凸凹や特性を「活かす」視点の欠如

(2) はじめに診断ありき、になりがち

（支援に医学的診断は不可欠ではない）

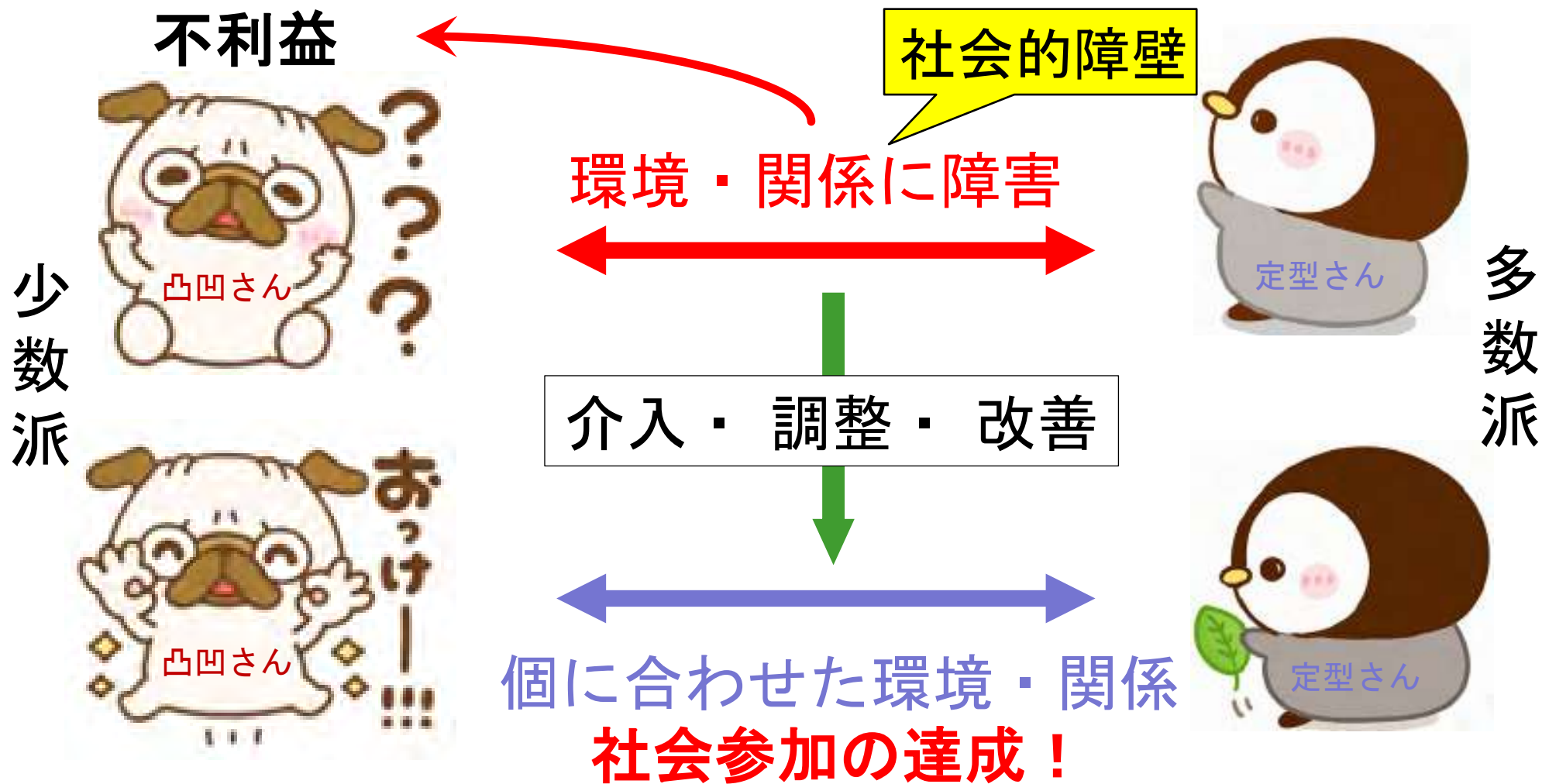
適切に診断・支援できる医師の不足

“待機問題”が生じてしまう

「治す」から「活かす」への発想の転換

社会モデル

障害は環境や関係にある



社会的障壁

社会参加を妨げる事物、制度、慣行、観念その他一切

(1) 制度・体制（ハード面）

物理的な配慮不足、利用しにくい制度・手続・施設・設備
交通や移動などでの不備・不利

こっちが重要

(2) 意識・考え（ソフト面）

先入観・偏見・差別（≠区別）・排除
障害の否定・無理解・「努力不足」「精神論・根性論」
同調圧力・間違った平等意識・個別配慮の否定

家族と支援者の内なる社会的障壁への気づきがとても重要

「できた！」が発達のも動力

成功体験の積み重ねが大切

避けたい悪循環

- ☑ うまくいかないことが多い
- ☑ 怒られる回数がうなぎのぼり
 - ☑ 頑張っても怒られるだけ
 - ☑ 挑戦や努力をしなくなる
- ☑ 自尊心の低下「どうせ俺なんか・・」



(アフターフォロー無き)

失敗は二次障害のもと

困る行動・問題行動が増え
その子の本来の発達が失われる

サポートのキモ

ハードルは低く

こまめにほめる

難しいことは手伝う

ほめるコツ

親も！

- (1) 小さな（良い）変化を見つける
- (2) 肯定的注目を実況中継＝言語化
- (3) 伝わる褒め方：皮肉嫌味は禁句

* 目標 *

やってほしい行動の定着

行動や人格の価値判断ではない

適応過程

周囲の理解と配慮



日々の生活が改善していく



自分の凸凹を自覚できる



自分で工夫するようになる

どこで支援するか？

- (1) 家庭
- (2) 集団
- (3) 自分自身
- (4) 専門機関はこれらの下支え
 - ① 見立て（含む診断）
 - ② アドバイス
 - ③ 機関連携
 - ④ 治療や訓練（含薬物）

療育でしていること

(1)アセスメントする（みたてる）

- ・ 子どもの状態像をアセスメントする
 - ☞ 過去（発達）、現在（現象）、未来（方向性）
- ・ ケースのニーズをアセスメントする
 - ☞ 子どもの状態像から見た必要性 & ≠ 親の願い・思い

(2)直接支援

- ・ ケース・ワーク
- ・ カウンセリング
- ・ 専門スタッフ（心理・PT・OT・ST・保育等）による療育
 - ☞ 個別療育、小集団療育、通園療育、薬物治療など

(3)間接支援

- ・ 巡回相談・地域支援・地域連携
 - ☞ 地域で暮らせるよう、地域に戻していく

専門機関の“使い方”のコツ

- (1) 地域によってリソースが違う
- (2) 「駄目だから療育」ではなく・
- (3) 「園が困っているから」もあり
- (4) 専門機関への依存と期待は禁物
(あてにし過ぎない)
- (5) 療育センターは通過点に過ぎない
- (6) 押したり引いたり (POINT制)

幼児期の困りごと

(1)言葉の遅れ

☞ 伝わることが大事「質より量」

(2)動きの多さ

☞ 危険回避・原因探求・有効活用

(3)感覚過敏

☞ 意識する・無理強いせず徐々に慣らす

(4)集団活動・集団適応

☞ 大人の適切なアシスト・介入が不可欠

学校生活の困りごと

(1)学習

👉 ハードル設定を間違えない！

(2)友人関係

レベル・学習手段・集中時間

👉 大人が目を配っておく

(3)日常生活でもするべきことが多数

👉 キャパオーバーに注意

＋自我の確立や自立も阻害しない

コミュニケーションのコツ

(1) 合わせる：ノンバーバルが大事

(2) くみとる：生理・行動・言葉

(3) つたえる：言葉遣いの注意

- ・ シンプルに一つずつ
- ・ 一回聴いて分かるように
- ・ 具体的に：曖昧や遠回しは駄目
- ・ して欲しい行動を伝える

困る行動・問題行動

ただし下手な

ではなく「対処行動」

社会的に許容される

より適切な行動に置き換える

パニック対応のコツ

- (1) 本人の意志を汲み取る
👉 どうしたいのか？
- (2) 感覚特性を考慮に入れる
👉 何が抵触しているのか？
- (3) 行動の分析 👉 きっかけと結末
- (4) フラッシュバックへの対処も

原因除去・気分転換・ひたすら待つ

保護者として

自分（達）にできる子育てをする
パートナーへの期待はほどほどに
子どもへの期待もほどほどに
自分への（ささやかな）ご褒美も

自分と家族の凸凹を振り返る

凸凹は遺伝する

自分と家族の育ちを振り返る

されて嫌だったことはしない！

子どもにヤキモチを焼かない

支援者として

自分達にできる支援をする

結果への期待はほどほどに

子どもと家族への期待もほどほどに

自分への（ささやかな）ご褒美も

心身の健康を保つには

疲れたら休む（ぼんやりは大事）

自分にとり心地よい人・物と接する

愚痴を言える相手を持つ

自己否定をしないことを決心する

（〇〇〇〇の自分が好き！）

心の持ちようを転換しようとする

ゴール

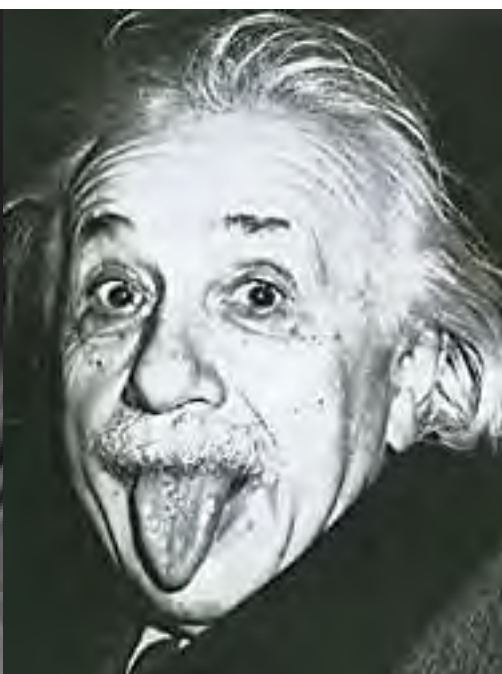
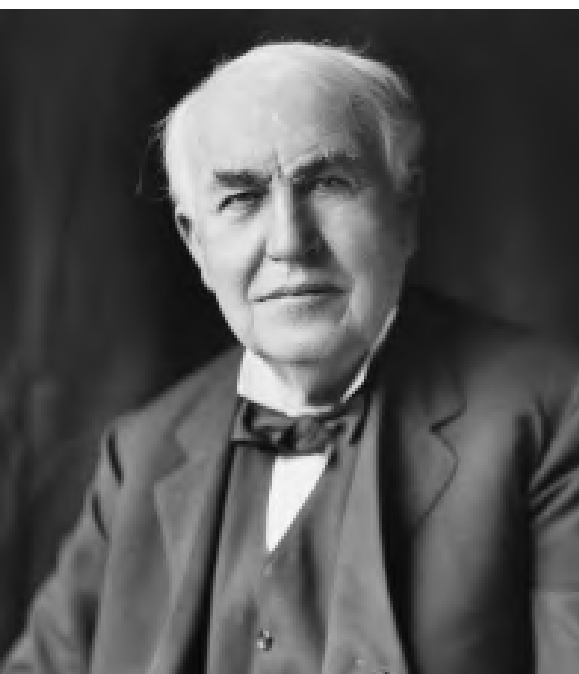
支援は最小限

- (1) 自分なりに人生に対処できる
- (2) 自立とは
 - × 全て自分で出来る
 - 困った時にSOSを出せる
- (3) それぞれの社会参加や幸せな時間

みんな違ってそれで良い

“適材適所”

“捨てればゴミ活かせば資源”



特性を活かした人々



発達障害支援のコツ

広瀬宏之



コツ満載!!

これは、発達障害者支援であるに違いないが、近年発達障害者の増加に伴って、「支援・援助」については「知識・情報・心得」の差が広がっています。読みに慣れている方々のために、平易・簡明から書き始めます。発達障害者支援の経験として、この本の出版を希望して

岩崎学術出版社

発達障害 支援の実際

広瀬宏之

事例から学ぶ

ダイアローグのコツ

Hiroaki Hirose
広瀬宏之



岩崎学術出版社

発達・子育て 相談のコツ

100問・100答

広瀬宏之



子育ての工夫
「てんこ盛り」

「七カ月の息子が目を合わせてくれない……八歳の娘が「どうして人は死ぬの？」
高校生の息子がスマホゲーム依存症？……。百人百様の悩みを、現場一筋の小児
科医が、発達の見点を交えて実例に答えます。お母さんから専門医まで、子どもの
未来をつくるすべての人に。」

岩崎学術出版社

発達障害の ある 子育て

家族で支える

広瀬宏之



岩崎学術出版社

地域支援で
医師に
できること

発達障害診療 の手引き

岩崎学術出版社



◎ 広瀬宏之
東京大学大学院教育学研究科教授

困りごとに
向き合う
育て方のヒント
が満載!

発達障害

グレーゾーン

の子の育て方がわかる本

日本児童心理学会
認定
講談社



声かけ

ほめ方

環境
づくり

就学
準備

学習
支援



ご静聴ありがとうございました

